

東京 2020 大会における首都高速道路の料金施策に関する方針(案)

1 検討経緯

これまで東京都・組織委員会・国は、大会期間中の円滑な大会輸送と経済活動・市民生活の両立を図るため、様々な交通対策の検討を進めてきました。

具体的には、多くの企業・市民の皆様から少しずつご協力を頂き、全体の交通量を低減する交通需要マネジメント（TDM）、高速道路での流入調整などを行う交通システムマネジメント（TSM）、時差出勤などピークシフトなどを行う公共交通輸送マネジメントです。

こうした検討を進める中で、大会関係車両が多く通行する首都高速道路での流動を確保する上で、以下の課題があることが明らかになりました

（参考 第4回交通輸送技術検討会〔平成31年2月6日〕資料2・3）

- 1) TDMのみでは首都高の交通量が減りにくい傾向にあること
- 2) 大会期間中は、大会関係車両の通行、物流車両など派生需要の増加など、例年同時期の交通量よりも多くの交通が見込まれること
- 3) TDMによる交通量の低減効果を、オリンピック・パラリンピック期間（約30日間）を通じて継続させる必要があること

このことから、本年2月、学識経験者を交えた交通輸送技術検討会において、検討中のTDM、TSMに加えて、更なる追加対策の検討の必要性が確認され、東京都と組織委員会から国等に対し、検討の協力を要請しました。

その後、本年7月には、一般交通を対象にTDM、TSMの交通対策の試行を実施し、その検証結果として以下の事項をとりまとめました。

（参考 第6回交通輸送技術検討会〔令和元年8月26日〕資料2-2）

- 1) 今回の試行で、道路交通は一定程度減少
（一般道で約4%減少である一方、首都高では、TDMのみの日では前年同日に比べ約0.4%と減少幅が小さい）
- 2) TSMを効果的に機能させるためには十分な交通量低減が不可欠
- 3) 大会期間中は、大会関係車両、波及交通などが増加する見込み
- 4) 高強度のTSMを長期に実施した場合の経済活動や都市活動に対する影響が懸念
- 5) これらのことを考慮すると、大会本番に向けてはTDMによる更なる交通量の低減と、追加対策の実施が必要

こうした検証のもとに、国から首都高速道路での追加対策について、検討結果が示されました。（参考 第6回交通輸送技術検討会 資料3-1）

国の検討結果では、ナンバープレート規制及びHOVレーンについては、首都高の構造的な問題（片側2車線など）等が存在するとされ、料金施策については、既存のETCシステムの活用が可能でTDMやTSMと組み合わせることを前提に、夜間割引を導入した上で、料金上乗せ額についての3パターンが示されました。

これをもとに、交通輸送技術検討会での議論をふまえ、都と組織委員会で本方針（案）をとりまとめました。

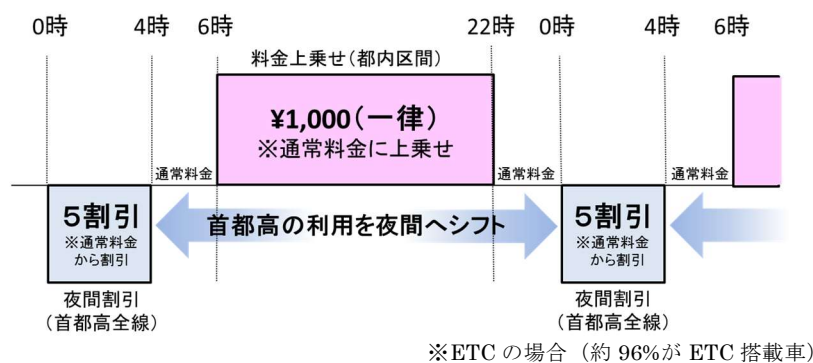
2 料金施策の内容

交通輸送技術検討会による以下の3点の意見「①首都高速道路の流動を確保する効果、②TSMなど交通規制を行う強度と影響、③一般道での交通渋滞の発生などの影響」を受け、料金上乗せによる経済的負担の度合いの観点などを考慮した上で、夜間半額割引を導入するとともに、料金上乗せ額を1000円と設定しました。

《ETC搭載車両》

夜間割引（全車種、首都高全線、5割引）

料金上乗せ（マイカー等、都内区間、1000円）



《現金車両》

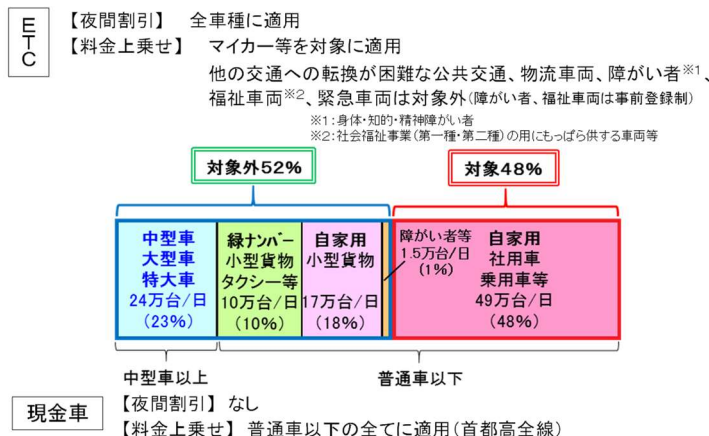
夜間割引なし

料金上乗せ（普通車以下の全て、首都高全線、1000円）

・対象車種

料金上乘せについては、経済活動・都市活動を維持する観点から、以下のとおり、対象外車種を設けています。

なお、夜間割引については、混雑時間のさらなる分散を図る観点から全車種を対象としました（現金車を除く）。



・適用期間

オリンピック大会、パラリンピック大会ともに、開会式から閉会式までの期間に適用することとしました。

加えて、オリンピック開会式前において、一部競技の実施、練習会場との往復、諸行事の開催などにより交通量の増が見込まれるため、開会式に先立つ4日間（7/20～23）も適用することとしました。

また、オリンピックの選手、関係者の出国は閉会式翌日がピークであり、迅速に輸送する必要があることから、定時性が求められる閉会式翌日（8/10）にも適用することとしました。

2020（令和2）年7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
			オリ競技開始		オリ開会式	
26	27	28	29	30	31	

: 適用日

2020（令和2）年8、9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
オリ開会式	選手等の帰国ピーク					
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
		パラ開会式				
30	31	9/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
パラ閉会式						

3 料金施策を含めた交通対策の考え方

大会期間中の円滑な大会輸送の実現と、経済活動・都市活動の維持との両立を図るため、TDM、TSM、料金施策を下記の考え方をもとに運用します。

- ① TDM で物流車両も含めた道路交通全体の需要を削減
- ② 夜間割引の導入による交通シフトを促進
- ③ 昼間時間帯において、一般道から首都高への転換を抑制するためのマイカ一等に対する料金上乘せ
- ④ 交通状況に合わせた TSM の実施

料金上乗せ範囲(ETC搭載車)

参考

